

2021

Junior Red Cross

Information

青少年赤十字指導情報 No.169

JRCと新型コロナウイルス感染症 一指導スタッフやメンバーはどう行動したのかー



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

+ 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society
人間を救うのは、人間だ。

学校教育における 青少年赤十字の 有用性

千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課
(元文部科学省初等中等教育局視学官(併)
特別支援教育調査官)

課長 青木 隆一



「青少年赤十字指導情報2021」が発刊される頃には、新型コロナウイルス感染症が収束していることを願いながら、本原稿の執筆に当たっています。

さて、時計を40数年前に戻します。私が通った小学校は、青少年赤十字の加盟校でした。勉強が苦手で遊んでばかりいた自分が、アンリー・デュナンに出会い、博愛・奉仕・親善などの言葉を知りました。「世の中には凄い人がいるものだ。僕ももっと勉強しなきゃ」と子供ながらに思ったものです。6年生の時には、学校代表として地域の青少年赤十字の大会に参加し、その厳かな雰囲気に感動したことも覚えています。今思えば最初のターニングポイントだったような気がします。そして平成30年、縁あって「青少年赤十字研究会」で講演させていただく機会を得ました。講演内容をどう構成しようか思案に暮れました。変化が激しく厳しい時代と言われている今こそ、青少年赤十字の活動を通じて、あの少年のころに芽生えた感動を今の子供たちに起こしていただけるようお話ししようと胸に秘め、壇上にあがりました。

さて、ご存じのように新学習指導要領が公示されました。新学習指導要領改訂の主旨等は、すでにご承知のことと存じますが、一つだけ基本的なことを確認いたします。よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという理念の実現に向けて、必要となる教育課程の基準を定めるものが学習指導要領です。教育課程は、各学校の教育計画そのものであり、およそ全ての学校教育活動は教育課程に基づいて行われます。つまり、各学校が行う青少年赤十字の理念に基づく教育活動も教育課程に基づいていることとなります。そこで、基準となる学習指導要領と学校教育における青少年赤十字の活動との関連を探ります。

まずは、青少年赤十字の実践目標です。

- 1 健康・安全 ≈「生命と健康を大切にする」
- 2 奉仕 ≈「人間として社会のため、人のために尽くす責任を自覚し、実行する」
- 3 国際理解・親善 ≈「広く世界の青少年を知り、仲良く助け合う精神を養う」

一方、小学校学習指導要領第1章第1の2には、生きる力の育成及びそれを構成する「知・徳・体」が示されています。例えば、「徳」のところですが、「(前略)人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心をもち、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、平和で民主的な国家及び社会の形成者として、公共の精神を尊び、社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人の育成(後略)」(中高も同様規定)とあります。まさに実践目標に通じる内容であることが分かります。他にも随所にキーワードを見付けることができるのです。

青少年赤十字の活動は、まさに学習指導要領に則ったものです。ここで言いたいことは、学習指導要領が先か、青少年赤十字活動が先か、ということではありません。よりよい社会の創り手を託したい子供たちに、どのような資質・能力を育成すべきかといった方向性は同じであり、そこに青少年赤十字の有用性を見出すことができるということです。皆さんには、青少年赤十字の活動に自負と誇りとやりがいをもっていただき、ますますの推進をご期待申し上げたい。そして、四つの「かい」のある学校を目指していきませんか?

子供たちが、まなびがいのある学校
保護者が、通わせがいのある学校
先生方が、働きがいのある学校
地域が、応援しがいのある学校

14

13

12

9

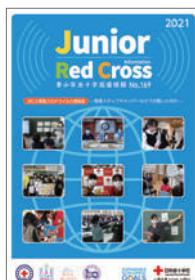
7

3

1

青少年赤十字(ＪＲＣ)とは**JRC出身者活動紹介**

JRCは2022年、
創設100周年を迎えます



Junior Red Cross Information
2021.4.1 No.169

青少年赤十字指導情報
※本誌の内容は、原則として2021年3月31日時点のものです。
2020年以前の活動を紹介しているケースがございます。

学校教育における青少年赤十字の有用性

千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課
(元文部科学省初等中等教育局視学官(併)特別支援教育調査官)

課長 青木 隆一

巻頭言**JRCと新型コロナウイルス感染症**

—指導スタッフやメンバーはどう行動したのか—

- ・「3つの顔」を活用した授業実践
- ・「3つの顔」を活用したJRCメンバーのアクション
- ・コロナ禍のJRC活動

学校生活×JRC**日本縦断活動紹介****■持続可能な開発目標(SDGs)とは?**

SDGsとは、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。

■SDGs 17の目標

- | | | |
|------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1. 貧困をなくそう | 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに | 13. 気候変動に具体的な対策を |
| 2. 飢餓をゼロに | 8. 働きがいも経済成長も | 14. 海の豊かさを守ろう |
| 3. すべての人に健康と福祉を | 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう | 15. 陸の豊かさも守ろう |
| 4. 質の高い教育をみんなに | 10. 人や国の不平等をなくそう | 16. 平和と公正をすべての人に |
| 5. ジェンダー平等を実現しよう | 11. 住み続けられるまちづくりを | 17. パートナーシップで目標を達成しよう |
| 6. 安全な水とトイレを世界中に | 12. つくる責任つかう責任 | |

■赤十字活動とSDGs

国際社会全体の開発目標であるSDGsの策定には、国際赤十字も深く関与しており、赤十字では目標の達成にも貢献しています。そのため、今回の指導情報で取り上げる青少年赤十字活動において関連性の高い目標をそれぞれ掲載しました。

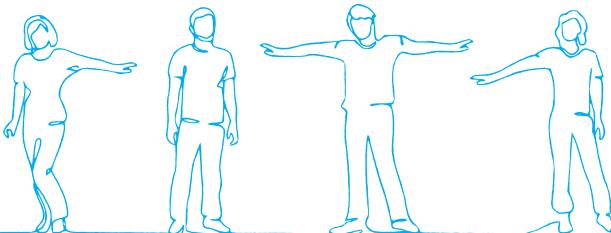
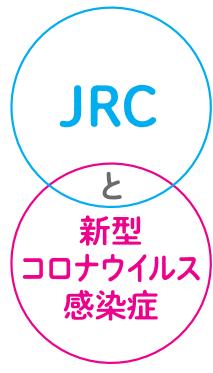


青少年赤十字（JRC）メンバーの取組
用事例のほか、コロナ禍における学校や
様々な教育機関で活用され、文部科学省
もその内容を参考とした啓発動画を作成しました。ここでは「3つの顔」の活用事例のほか、コロナ禍における学校や
青少年赤十字（JRC）メンバーの取組
みを紹介していきます。

日本赤十字社は教材「新型コロナワイルスの3つの顔を知ろう！」を提供、文部科学省もその内容を参考とした啓発動画を作成しました。ここでは「3つの顔」の活用事例のほか、コロナ禍における学校や
青少年赤十字（JRC）メンバーの取組
みを紹介していきます。

日本赤十字社は教材「新型コロナワイルスの3つの顔を知ろう！」を提供、文部科学省もその内容を参考とした啓発動画を作成しました。ここでは「3つの顔」の活用事例のほか、コロナ禍における学校や
青少年赤十字（JRC）メンバーの取組
みを紹介していきます。

指導スタッフや メンバーはどう行動したのか



■日本赤十字社が提供するコロナ関連教育教材

新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！

～負のスパイラルを断ち切るために～

新型コロナウイルスの感染拡大を防止するために、日本赤十字社が作成した教材です。日本赤十字社のWebページからダウンロードすることができます。ふりがな付きタイプもあります。

振り返りシート

新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう

新型コロナウイルスについて学んだあと、意見や感想を記入できるシートです。小学校でも使えるよう、ふりがな付きのタイプもあります。

アニメーション動画

「ウィルスの次にやってくるもの」



新型コロナウイルス感染症から、体だけではなく、心を守り、社会を守るための、心構えを伝える絵本アニメーションです。



■文部科学省との連携施策



①文部科学省の指導資料で紹介

文部科学省は、小学校、中学校及び高等学校へ向けて、新型コロナウイルス感染症の予防に関する指導資料をWebページに掲載しています。そのなかで、指導例6として新型コロナウイルス感染症に関する差別や偏見に関する解説を行い、参考資料として「3つの顔を知ろう」を紹介しています。

(出典：文部科学省HP新型コロナウイルス感染症の予防保健教育資料)

②文部科学省のプロジェクトへの協力

文部科学省では新型コロナウイルスに関する差別・偏見をなくすためのプロジェクトを発足し、日本赤十字社の「3つの感染症」の考え方を参考とした啓発動画を制作しました。また、授業用スライド・指導例・ワークシートや、保護者向けのプリント、学校掲示用のポスターデータなども制作し、啓発活動を展開しています。

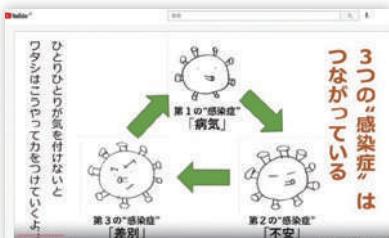
QR code linking to the project website.

(出典：文部科学省HP新型コロナウイルス差別・偏見をなくそうプロジェクト)

教諭が作成した動画を給食の時間に視聴

小学校

熊本県阿蘇市立内牧小学校では、「3つの顔」を紹介する動画を教諭が作成し、YouTube上で公開しました。また、給食の時間を使って児童に視聴してもらい、新型コロナウイルスについて学び、負のスパイラルを断ち切る行動を促す取り組みを行いました。



教諭が作成した動画

道徳の授業で「思いやりの気持ち」の大切さを学ぶ

中学校

神奈川県大和市立大和中学校では、道徳の授業で「3つの顔」を活用した授業を行いました。子どもたちは真剣に話しを聞き、考え、「恐れる気持ちは誰の心にもあり、他人事ではないのだと感じた」「病気自体の怖さもあるが、そこから簡単に派生してしまう不安や差別が怖い」と話しました。そして、負のスパイラルを断ち切るため、「思いやりの気持ち」を大切にすることが必要といったように、前向きに学校生活を行うための意見が上がりました。



拡大印刷し全員がみえるように掲示

中学校

高等学校

高知県の土佐中学校・高等学校では養護教諭が「3つの顔」のスライドをそれぞれ拡大印刷し、全員が見られるように保健室前の掲示板に掲示しました。



エッセンシャルワーカーへの理解を深める

高等学校



香川県立三木高等学校では、授業の中で、「3つの顔」を使用し、エッセンシャルワーカーの人たちへの理解や配慮について学習しました。

「3つの顔」を活用した授業実践

全国で活用されている「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！(以下「3つの顔」)」の事例を紹介します。

掲示板を通じて「3つの顔」に関する意見や提案を学校全体に広げる

小学校

愛知県長久手市立東小学校では、5・6年生のJRCリーダーを対象に、「3つの顔」を活用した授業を実施しました。感染症のリスクに対して自分たちができることは何か、それを他の児童にどう広めていくのかと一緒に考える取り組みで、JRCリーダーからはたくさんの意見が挙がりました。それらの意見・提案はJRC掲示板に貼りだされました。「彼らの提案は掲示板を通じて学校全体に広がっていくと思います」と担当教員は語りました。



「3つの顔」を印刷し活用した授業

振り返りシートも活用した保健の授業

小学校

千葉県銚子市立明神小学校では、6年生を対象として「3つの顔」を活用した保健の授業を実施しました。この授業は新型コロナウイルス感染症について理解を深めるために行われたもので、子どもたちは「ワクチンができていないから不安が生まれる」「友だちに病気をうつしてしまわなか不安になる」など3つの顔(病気・不安・差別)について具体事例を出し合い、自分たちが実践できることを考えました。また、養護教諭は正しい手洗いの仕方を紹介しました。授業を受けた子どもたちは、夏休み前に手洗いなど「ウイルスから自分の身を守ること」や「不安」が「差別」を生むこと」を再確認しました。

指導者は、「日本赤十字社石川県支部が作成した映像資料と振り返りシート(ワークシート)を組み合わせて活用することで、授業の展開を考えやすかった。“差別”や“偏見”について改めて意識付けができたと思う」と語りました。



手洗いの仕方を実践

正しく知って正しく恐れる コロナに負けない心を育てよう！

小学校

長野県青少年赤十字賛助奉仕団は、長野県佐久市立田口小学校の高学年(約90名)を対象に、「3つの顔」を活用した授業『コロナに負けない心づくり』を実施しました。自分や友達、家族が新型コロナウイルスに感染したらどうなるかを考えもらおうと、自分も感染したら嫌なので近付きたくないという意見も当初はみられました。しかし、学習を進める中で、感染した人が悲しい気持ちにならないようにしたいという思いが生まれました。そこで、自分たちにできる感染対策や感染時の行動等を考えるとともに、医療従事者の方々に感謝の気持ちを伝えるためメッセージボードを作成しました。参加した子どもたちは、「差別は病気以上に怖いと思った」「医療従事者の人のためにも自分にできる予防をする」と語りました。



道徳の授業で「思いやりの気持ち」の大切さを学ぶ

中学校

石川県白山市立松任中学校では、道徳の授業で「3つの顔」を活用した授業を1年生から3年生までの全25クラスで実施しました。新型コロナウイルス感染への不安からくる差別や偏見の構造について理解し、感染症に対する不安からの差別や偏見につなげない態度を育てる目的で行われた授業では、ワークシートを使い生徒たちに「3つの感染症」を防ぐための工夫を考えてもらい、それぞれの発言から考えをさらに深めていく手法をとりました。



「3つの顔」を活用したJRCメンバーのアクション JRCメンバーの取組みや実践の事例を紹介します。

■新型コロナウイルス感染拡大防止啓発ポスター作製

高等学校

和歌山県立和歌山北高等学校のJRCメンバーは、「3つの顔」を学び、正しい知識を身につけた後、新型コロナウイルスとの闘いの中で人との距離は遠く、心の距離は近くにして支え合いたいと考え、学校内でマスクの着用や手洗い、咳エチケットを啓発するポスターを作製しました。



咳エチケットのポスター

■差別をやめよう！「No！差別」啓発活動

高等学校

静岡県立三島南高等学校のJRCメンバーは、教材「3つの顔」で感染症について学びました。新型コロナウイルス感染症による「差別」や「偏見」をなくすため、議論を重ねて考え出されたキャッチフレーズを掲げたポスターとオリジナルのうちわを作成し、うちわを全校生徒や教職員へ配布し、ポスターを校内の人に目につきやすい場所に掲示しました。さらに校内だけでなく、駅でもうちわを配布しました。その際、人との接触を避けるために手から手へ渡すではなく、うちわの入ったカゴを用意してカゴの中から受け取ってもらうなど、コロナ禍での活動における配慮のうえで、啓発活動を行いました。



■「3つの顔」の放送劇を実施

高等学校

千葉県立柏南高等学校では、「3つの顔」の内容をコンピュータ部放送班が朗読劇としてまとめ、お昼の時間に全校生徒に向けて放送しました。学校が再開されて以降、同班はお昼の放送でこれまでに3回にわたりコロナ関連の番組を放送してきました。今回、劇の中で新型コロナウイルスによって起こる「病気」「不安と恐れ」「嫌悪や偏見、差別」の3つの感染症を紹介。対策として、「衛生行動の徹底」「気づく力を高める」「確かな情報を広める」、そして「差別的な発言に同調しない」ことを放送劇として熱演し、全校に伝えました。



放送劇を行ったメンバー



佐野常民が送った注意書

※参考文献：『日赤の創始者 佐野常民』
(吉川龍子) 吉川弘文館

新型コロナ感染拡大により、私たちは感染症に対する正しい知識と対策がいかに重要かを認識しました。日赤の衛生に対する啓発活動は、145年も前から続いている。

佐野は東京で寄付金集めに奔走する合間に、現地のスタッフに対し、電報による指示を沢山送りましたが、その中に、「衣服の清潔」「節度ある飲食」「換気」「医師の指示に従う」などの衛生上の注意もありました。結果、博愛社が担当した救護所では、1名もコレラ患者を出さず、スタッフも全員無事でした。医学を学んだ佐野の知識が実を結んだと言えるでしょう。

145年前から変わらずに呼びかける感染症対策
「コレラから傷病者を救った佐野常民の電報」
明治10年(1877)、西南戦争の最中に九州地方でコレラが蔓延したことがあります。同年5月に日本赤十字社の前身である「博愛社」を創設した佐野常民は、戦地に綿帯所や救護所を設置するため、寄付金や薬品を携えたスタッフを長崎に送りました。佐野は東京で寄付金集めに奔走する合間に、現地のスタッフに対して、電報による指示を沢山送りましたが、その中に、「衣服の清潔」「節度ある飲食」「換気」「医師の指示に従う」などの衛生上の注意もありました。結果、博愛社が担当した救護所では、1名もコレラ患者を出さず、スタッフも全員無事でした。医学を学んだ佐野の知識が実を結んだと言えるでしょう。

多くの人々に勇気と希望を！ 兵庫県支部JRCメンバーが『ひまわりキャンペーン』

日本赤十字社兵庫県支部では、『たくさんの人に勇気と希望を！ひまわりキャンペーン』を企画しました。これは、ひまわりの花によって、新型コロナウイルスの感染拡大で影響を受けていた人々に勇気と希望を届けるという取り組みです。賛同した小・中・高・特別支援学校のJRC加盟校のメンバーは、思いを伝えるにはどうしたらいいかと考えました。多くの人の目につく場所に種を植え、水やりを忘れないようにお互いに協力し日々の活動を続けた結果、大輪のひまわりの花を咲かせることができました。真夏の青空に映えるひまわりの花を目にした人からは、「久



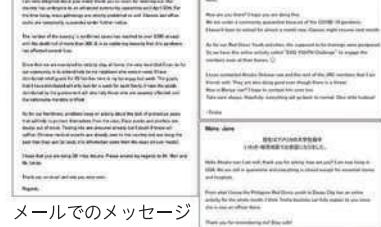
ひまわりの花の前で記念写真



しぶりに明るい気持ちになつた」と感謝の言葉をかけていただきました。

福島県支部JRCメンバー、 フィリピンJRCメンバーと交流

日本赤十字社福島県支部のJRCメンバーは、国際交流事業で交流したフィリピン赤十字社のメンバーからメールでメッセージが届いたことをきっかけに、メッセージのやり取りを実行しました。JRCの実践目標の一つである「国際理解・親善」を目的として始めたものでしたが、お互いの近況をメッセージで報告し合うためには言語の壁がありました。支部職員のサポートを受けることで言葉の問題を解決し、新たな形で交流を続けています。



メールでのメッセージ

医療従事者へのメッセージ

高等学校

宮崎県立宮崎大宮高等学校JRCメンバーは2020年5月30日(土)、日本赤十字社宮崎県支部で行われた『新型コロナウイルス感染症オンライン講座』を受講しました。新型コロナウイルスの影響でたくさんの医療従事者が大変な思いをしている現状を知ったJRCメンバーは、1日でも早くこれまでの生活に戻れるよう懸命に働いて下さっている方々に感謝の気持ち伝えたいと考え、各学年の職員室前に箱を設置し、全校生徒からメッセージを集め、医師会長を訪問しました。

宮崎県医師会の河野会長はこのメッセージを目にして、「若い人たちが、現在の大変な医療情勢に関心を持ってこのような活動をしていることは素晴らしいことです」と感謝の言葉を語りました。



全校生徒からメッセージ

コロナ禍のJRC活動

JRCメンバーは、やさしさや思いやりを形にする活動を行ってきました。コロナ禍で工夫したJRCメンバーの活動を紹介します。

置戸中学校で医療従事者に 励ましのメッセージ

中学校

北海道置戸町立置戸中学校は、JRCメンバーである生徒会の企画のもと、全生徒に付箋を配布して医療従事者への感謝と励ましの言葉を記入してもらう取り組みを行いました。集まった付箋を色紙にまとめ、オホーツク管内新型コロナウイルス感染症に対応していた北見赤十字病院と遠軽厚生病院へ寄贈しました。



メッセージを受け取る医療従事者

大阪府の高槻中学校・高等学校で 献血啓発の広報動画を作成

中学校

高等学校

大阪府の高槻中学校・高等学校では、新型コロナウイルス感染症の影響によって献血者が減少していることに気づき、病気やけで苦しんでいる方が安心して輸血を受けられるよう、広報動画を作成したいと考えました。動画を作成したのち、大阪府赤十字血液センターのホームページとSNSで公開し、若い人たちが献血の大切さを知る良い機会を作ることができました。

これらはJRCの態度目標である「気づき」「考え」「実行する」を実践した活動と言えます。



大阪府赤十字血液センターのホームページ

群馬県の桐生第一高等学校JRC部が マスク100枚を寄贈

高等学校

群馬県の桐生第一高等学校JRCメンバーは、前橋赤十字病院へ備蓄していたマスクの一部を寄贈しました。新型コロナウイルス感染拡大により外出自粛が続いているが、活動できないもどかしさを感じる中、最前線で新型コロナウイルスに立ち向かう医療従事者とその家族の気持ちを思い、自分たちになにができるかと考えました。当時、マスクが供給不足だったのですが、備蓄していたマスクを前橋赤十字病院へ届けました。赤十字7原則の一つである「奉仕」の実践ともいえるこの行動に、周囲の人たちも励されました。



前橋赤十字病院にマスクを寄贈



学校生活×JRC

JRCの考え方や手法を 学校生活に役立てよう

青少年赤十字（JRC）には、人道教育や防災教育といったコンテンツや「気づき、考え、実行する」などの理念があります。そうした考えを基にした行動を促す手法・ツールなども多数用意しています。授業や学校運営のなかでJRCを活用した事例を紹介します。



JRCメンバー OBからのメッセージ

JRC活動を通じて 世界とのつながりを広げる

JRCメンバーとの交流で育まれた奉仕精神

JRCと出会ったのは、私が長崎県立長崎西高等学校に入学した頃のことでした。小・中学生時代に仲の良かった友達の一人がボランティア活動に詳しく、その友人に誘われて入部したのがきっかけです。

当時、JRC部員は1、2年生あわせて20名程度で、男子生徒のほうが多かったように思います。長崎市内にある県立高校を含む数校のJRC部員は、週に1回か2回、長崎市内にある日赤長崎県支部に集まって活動する機会がありました。受験勉強から一時離れて他校の生徒と一緒に課外活動ができる、その自由な交流の場の雰囲気がとても楽しかったことを記憶しています。

長崎駅の清掃活動や献血活動、募金活動のお手伝いや養護施設への訪問といった活動の合間に、仲間と喫茶店でお茶を飲みおしゃべりすることもありました。そうしたあまり高尚とは言えないところに惹かれていたわけですが(笑)、活動を続けていくうち自然と自分の中で徐々に奉仕精神が養われたような気がしています。

世代を超えた人と人との交流

高校を卒業後、私は東京大学・文科二類で学ぶことになります。その当時は、ちょうど学生運動真っ盛りの頃でしたので学内は大変混乱していました。私は点字サークル「点友会」に入会し、目の不自由な方々のために点字翻訳を行うようになりました。

日本赤十字社 釜 和明 監事

1948年生まれ。長崎県出身。1971年、石川島播磨重工業(現IHI)に入社し、2007年代表取締役社長に就任し、現在は特別顧問。高校時代にJRC活動に参加し、大学では点字サークルで活躍する等、奉仕活動を行ってきた。



この活動には図書館の職員や点訳グループに所属する社会人など、多様な人たちが関わっていました。学生と社会人の垣根を越えてそうした仲間たちと福祉について語り合うなかで、自分の世界がどんどん広がっているという実感を感じることもありました。目の不自由な人たちに大学の門戸が開かれていない状況を変えるための活動をしたこともあります。東京での暮らしを始めたばかりの私にとって、ボランティア活動を通じて知り合う人たちの出会いは、ある意味で心の支えにさえなっていました。

世界とのつながりを実感してほしい

高校時代を振り返ってみてJRC活動の素晴らしい点を挙げるなら、誰かの役に立つことができる、誰かを支えることができるという実感を持てるこではないでしょうか。さらに赤十字という国際的な団体の活動ですので、「世界の仲間と活動できる」「世の中のいろいろな問題と関わって、世界を変えていこう」という流れに乗ることができます。

新型コロナウイルス感染症の拡大がいっこうに収束しない今、残念ながら人と人が直接会う機会は少なくなっています。しかし、JRCメンバーの皆さんならば「気づき、考え、実行」し、リアルとバーチャルを上手に活用しながらより良い活動を続けることができるはずです。この苦しい時期を乗り越えて、これからも有意義な活動を続けていってほしいと心から願っています。

事例① 小学校

総合的な学習の時間 × 防災教育



防災教育で身についた時間を無駄にしない行動

神奈川県横浜市立南瀬谷小学校
清水 博史 主幹教諭



浮いて待つことを学んだ着衣泳体験



6チームが参加した赤十字救急法競技会

本校では6年生を対象に、総合的な学習の時間を使って防災や急救法、避難所支援や着衣泳など「命を守る活動」を、年間を通して行いました。

小学校生活最後の総合的な学習で何をしたいか話し合ったところ、大阪で地震が発生した直後ということもあり、子どもたちから「災害時などもしもの時、人の役に立つことがしたい」「自分の命を守れるようになりたい」という意見が挙がりました。そこで、地域防災に目を向けた学習を子どもたちと始めたのです。

「防災」は子どもたちにとって必ずしも身近な課題ではなかったと思います。そのため、被災経験がなくても危機感や防災意識をもって活動してもらえるよう、できるだけ具体的な体験ができる内容を取り入れました。急救法などの知識・技能が高まることによって、子たちたちも徐々に傷病者の気持ちに寄り添った行動ができるようになりました。また、赤十字救急法競技会に参加したこと、日常の生活においても時間を無駄にせず迅速な行動がとれるようになってきました。「人のために尽くす」という考え方方が学級経営の柱となり、積極的に地域防災訓練等へ参加するなど、実践意欲の向上につながったと感じています。

事例② 小学校

総合的な学習の時間 × 防災教育、防犯・安全学習、平和学習



落語寄席を通した防災学習、防犯・安全学習

島根県奥出雲町立高尾小学校
川上 宜久 教諭

本校では「笑いと健康」をテーマとして全校をあげて落語に取り組み、地域の方々に向けて定期的な発表(寄席)を行っています。この活動を始めることで「学習、発表」という、子どもたちにとってよりよい循環が生まれるようになりました。例えば、チャリティーイベント、交通安全大会、戦没者追悼式など様々な行事へ呼ばれるようになると、寄席の中に被災地支援、交通安全、恒久平和といったテーマをもたせたいと考えるようになりました。そこで、テーマを学ぶため、総合的な学習の時間に防災学習、防犯・安全学習、平和学習について取り上げることになりました。

落語を始めたのは今から8年ほど前の2013年頃でした。児童数が7人ほどの小規模校であることもあり、「大勢の人前でももの怖じしない表現力を身に着けてほしい」という教員の想いからスタートしました。初めての寄席には100名の地域の方が学校に集まってくれたり、子どもたちもそのような舞台で堂々と落語をすることができました。これが評判となり、敬老会、お祭りといった地域活動に呼ばれるようになりました。こうして子どもたちの間で「笑い」の力で人を救いたいという思いが強くなっていました。

寄席を始めて3年後の2016年春、熊本地震がきました。本校の児童は、学校に行けない熊本の子どもたちのためにお役に立てればと、地域の方から頂いたご祝儀を被災地である熊本に送りました。2018年6月には防災教室を主催し、日本赤十字社島根県支部の職員の方から熊本地震の被害や現況について学び



高尾小にこにこチャリティー寄席



防災学習で避難所を体験

ました。翌7月に発生した西日本豪雨では広島県、岡山県、鳥取県に特別警報が出され、本校でも大雨警報下に下校を早めるなど日常生活に大きな影響を及ぼしました。子どもたちは、県境が接しているこの地域の災害を他人事ではないと受け止め、寄席のテーマとして自助・共助を取り上げ、「命を守る」ことへのメッセージ性を強めた発表を行いました。

こうして2019年度には寄席の開催数が50を超えるほどになりました。学年順に出番が並ぶ寄席では6年生がトリを務めます。その様子を見ていると、子どもたちの話し方も場数を踏むことによってどんどん上達していることがよくわかります。

2020年度は、7月27日、28日の両日、防災教室を開きました。島根県支部とみずうみ赤十字奉仕団の方から、豪雨災害の映像などを交えた講義、ベッドやパーティションを使ったコロナ禍での避難所体験、避難所備蓄食の試食、風呂敷リュックづくりやリラクゼーショングッズの製作体験などを学びました。その後、学んだことを寄席で発表できるようにまとめることも怠らず行いました。

JRCに加盟して、県内のJRCメンバーや賛助奉仕団、みずうみ赤十字奉仕団など多くの仲間とつながることができました。JRCトレセンがきっかけで落語会を開いたこともあります。その際には中高生のお兄さん、お姉さんからほめられるなどコミュニケーションを深めることもできました。落語への取り組みを通して、子どもたちは日々成長していると実感しています。

各ブロックの
取り組み

日本縦断活動紹介

全国の青少年赤十字（JRC）加盟校の中から、最新の取り組みをご紹介します。JRCを積極的に活用し、児童・生徒の温かな心を育んでいる6つの取り組みをヒントに、日ごろのJRC活動や学校生活をますます充実させていきましょう！



福島県立白河旭高等学校 JRC委員会
(福島県)

高等学校

JRC委員会企画 校内SDGs研修全17回！

『誰も取り残さないin ASAHI』

JRC委員会顧問 シェルパ愛子 教諭

テーマ SDGs

JRC委員会は、2020年1月からSDGs17の目標に関する校内研修を始めました。教員や日本赤十字社支部の職員、地域やOB・OGの方々に講師を依頼したほか、生徒からの企画もありました。

これまで、地域のボランティア活動を行った後、校内での継続的な活動につながることが少ないと課題でした。JRC活動はもともと楽しいものなので、原点に戻りたいと考え、この研修を始めました。

1月に研修を始めたものの、コロナ禍により休校に入り、再開してもボランティアの依頼はゼロ。しかし、大変な時こそ力になれるのがJRCです。「#JRCを止めない」をスローガンに、



登校日などに今できることを重ねていきました。すると、校内研修への参加者数が徐々に増えるようになり、多い時には100人を超える規模になることもありました。

JRC活動では「1人1人がリーダーで主役」です。生徒たちが研修に自主的に申し込み、放課後クラスや学年を超えて学び合い、自分たちで企画をしたり講師になったりしながら笑顔で深める「気づき、考え、実行する」学びが世界の希望であり、JRCの素晴らしいだと感じています。



SDGsの研修の様子

赤十字概論の研修



高等学校

十文字中学・高等学校 JRC同好会
(東京都)

「いのちの重み」を感じる授業に！

JRC同好会顧問 猪又由加 養護教諭

テーマ 妊婦体験

本校は、JRCの実践目標「健康・安全」活動として妊婦疑似体験を高校1年生の保健の授業に取り入れました。きっかけは、JRCのトレセンのプログラムでした。妊婦疑似体験の指導を行った際、参加生徒から「妊婦さんの大変さを知り、あらためて家族への感謝の気持ちがおきた」等の声を聞き、本校でも多くの生徒に体験させたいと考えたのです。「性教育」分野での授業内容のため、導入しやすいという側面もありました。



妊婦疑似体験の様子

本校には体験セットが1セットしかありませんでした。そこで日本赤十字社東京都支部から5セット借用し、1年生全員に体験させることができました。

おなかの重みや動きの悪さなどを実際に体験したのち、生徒たちから「今ここに居ることに感謝」「自分を大切にする」といった感想を聞くことができました。いのちの重みや親への感謝、周囲を気遣う心が培われたのだと感じています。



日本赤十字社愛知県支部

国際交流協会
×
日本赤十字社

共に生きる外国人住民に 広げる防災減災

日本赤十字社愛知県支部
社会活動推進課 社会活動推進二係 安立 陽一 係長

テーマ 防 災 教 育

外国人住民の数が全国2位の愛知県。当支部ではこれまで、地域の国際交流協会と連携し、外国人住民を対象に災害時でも役立つ救急法等の講習を「やさしい日本語」を使って普及を進めるなど多文化共生事業を推進し、近年ではそれらに加え、青少年赤十字の防災教材「ぼうさいまちがいさがしきんはっけん！」を活用した防災教育を各地域で展開しています。

日本語が分からない外国人や外国人の子どもへの防災教育の課題に対して、思いついたのが「ぼうさいまちがいさがしきんはっけん！」の活用でした。この教材は、文字ではなくイラストを見て日本で起こりうる災害を知り、防災を考えることが可能なので、外国人親子が楽しく防災

を学べるのではないかと思ったのがきっかけです。

参加した外国人住民からは、自分たちの住む地域で起こりうる災害や、地震や津波の警報アラームはどういったものなのかを確認するきっかけとなつたという声がありました。現在では県内の地域奉仕団が、外国人児童が多く通う学校や地元の防災サロンなどで外国人住民を対象に、赤十字の防災教育資材を活用した防災減災の普及啓発活動に取り組んでいます。



災害時に気を付け
ることについての
グループディス
カッション



地域奉仕団による防災教育。
地元の外国人住民と日本人
が一緒に防災について考
える機会となりました



和歌山県障害者支援赤十字奉仕団 (和歌山県)

支援学校
×
赤十字奉仕団

視覚障害をもつ子どもたちに 「手で触って学べる防災教材」作成

和歌山県障害者支援
赤十字奉仕団 橋 純子 委員長

テーマ 防 災 教 育

私たちは、奉仕団の技術と知識を活用して、幼児向けの防災教材「ぼうさいまちがいさがしきんはっけん！」を参考にした「手で触って学べる防災教材」を作成しました。県内の盲学校で視覚障害を持つ子どもたちの教育に役立ててもらえることを目的としています。

教材には子どもたちが触っても安全な素材を使用し、布や糸など質感の違う素材を組み合わせるなど、布絵本作り等の技術を取り入れました。教材を揺らすと、壁時計が落ち、ピアノや机が動き、本棚が倒れ、本が飛び出すといった

仕掛けになっており、教室内での地震被害がリアルに再現できるように工夫しました。

盲学校の先生方からも、「地震が起きた後、出口前に障害物が倒れ、棚から物が落ちているといった状況を、模型を使って子どもたちも想像することができるので、地震の恐怖を植え付けず安全に避難する方法を学べます」といったように好評をいただいている。



1つひとつのアイテムが丁寧に作られている
立体模型





山口市立湯田小学校 JRC委員会 (山口県)

小学校

つながる手と手、あたたかい心と心 ～地域の方々との交流会～

山口市立湯田小学校 田畠 大樹 教諭

テーマ 地域交流・高齢者交流

JRC委員会では、小学校の近所にある老人ホームへ訪問し、入所者の方に対してハンドマッサージをしたり、歌を贈ったりするといった交流を行っています。

この活動は長年継続して行っているもので、入所者の方との交流の機会をもつことで、子どもたちはもちろん入所者の方々にも笑顔になっていただくことができます。最初は、ハンドマッサージの仕方を覚えるのが難しく、コミュニケーションのとり方などもわからず苦

労しましたが、入所者の方の笑顔が忘れられずここまで続けることができました。

ハンドマッサージの上手下手に限らず、入所者の方々とふれあうことで、子どもたちは人のあたたかさを感じることの大切さを学んでくれた気がします。今後も、誰に対しても優しい心で接することのできる人になってくれるよう、願っています。



ハンドマッサージの様子



福岡市立小笹小学校 (福岡県)

小学校

災害を乗り越える「生きる力」を育む防災教育

福岡市立小笹小学校 藤高 伸 教諭

テーマ 防災教育

本校では防災教育に力を入れています。「自分の命は自分で守る」という自立した児童の育成を図るために、生活科や総合的な学習の時間を中核にして各教科等をつなぎながら「深い学び」を意識したカリキュラム・マネジメントに取り組んでいます。

青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのちひろめるぼうさい」の活用からスタートした研究でしたが、今ではカリキュラム・マネジメントを行いながら学校教育全体を通して防災教育を行っています。

当初は教科横断的な教育課程の編成に苦労しました

が、防災教育カリキュラムが完成すると、教師が指導内容や教科間のつながり、評価の要点などを意識しながら見通しを持った指導を行うことができるようになりました。

「まもるいのちひろめるぼうさい」をはじめとした防災教育の研究を始めて3年目になりますが、児童の防災に対する意識や知識などにも高まりが見られるようになりました。また、生活科や総合的な学習の時間、学校行事などを通して地域とのつながりもできました。

防災教育プログラムを活用した授業の様子
(3年生)

修学旅行での火山災害被災地の見学(6年生)





JRCは2022年、創設100周年を迎えます

日本における青少年赤十字(JRC)活動は、世界の平和と人類の幸福に貢献できる人間に成長してほしいという願いを込めて1922年に創設されました。来年で創設100周年を迎えるにあたり、創設当時の背景や目的等について紹介します。



■少年赤十字の始まりとJRCの創設

少年赤十字の始まりは、ヨーロッパを中心とした多数の人々に大きな被害を及ぼした第一次世界大戦がきっかけでした。カナダのケベック州赤十字支部は1914年、出征軍隊の慰問、救護のための救護材料の制作補助を担当させる目的で児童の名簿を作成しました。1917年にはアメリカが少年赤十字の結成を進め、オーストラリア、イタリアでも同様の動きがみられましたが、戦地を援助するためにはじめられた少年赤十字は戦争の終了とともに一度解散します。その後の1919年、アメリカ少年赤十字は戦争被災者救済を目的として活動を開始し、ヨーロッパの児童に慰問品や手紙を贈り、受領したヨーロッパから手紙などが返送され、交流の輪が広がっていきました。翌1920年にジュネーブで開催された第1回赤十字社連盟(現在の国際赤十字・赤新月社連盟)総会で、「すべての赤十字社は赤十字事業のためにその国の少年を養成すべし」という決議がなされ、1921年には、少年赤十字に関する大綱が決議され、正式に事業として位置づけられました。

日本赤十字社は赤十字社連盟を創設した5カ国の中でもあることから、少年赤十字団結成に率先して動き、1922年5月に実施方案を発表、設置に至りました。同年6月には滋賀県支部が国内最初の少年赤十字団を結成し、埼玉県支部、秋田県支部が続き、その後全国に広がりました。現在の加盟校は14,000校、総メンバー数は3,500,000名を数えます。

■少年赤十字の趣旨、特質

当初の少年赤十字は、「学校で組織されること」「実践を重んじること」「国際的な組織の一員であること」「児童自身の団であること」「博愛奉仕を実践すること」などを特徴としていました。なかでも実践・実行の重要性は、現在の態度目標「気づき、考え、実行する」につながるもので、このことは、実行によって学校教育の効果をさらにあげるという当初の方針に基づき、今も変わらず続けられていることの一例だと言えます。

■未来のあなたへ、やさしさを 一創設100周年事業—

2022年には100周年を記念し、「未来のあなたへ、やさしさを」をテーマに特別行事や各支部でのイベントを実施する予定です。ぜひ奮ってご参加ください!



滋賀県のJR守山駅前には、「少年赤十字団発祥の地」という顕彰碑が建つ



少年赤十字創刊号(1926年1月)の表紙



創刊号の本文には刊行の目的等が綴られている



1949年1月号の表紙(上)と掲載記事(右)



アメリカ団員が描いたイラストや、アメリカ赤十字の総裁として活躍したクララ・バートン氏の逸話などが紹介されている

100周年を前にした現在のJRC活動とは?

～コロナ禍でも交流は止めない！オンライン上でも確認した世界のメンバー同士の強いつながり～

2020年11月15日に令和2年度青少年赤十字国際交流事業を開催しました。全国41支部のJRCメンバーと、海外の17姉妹社(国と地域)から総勢500名を超える方々が参加し、JRC活動紹介や赤十字〇×クイズを行い、新型コロナウイルス感染症に伴い蔓延する差別や偏見との向き合い方を学びました。

ネット回線を介した交流という初の試みとなりましたが、参加メンバーそれぞれが熱のこもった発表により交流を深め、大変意義深い取り組みとなりました。

今後もオンラインの利点も活かしながら活動を推進していきます。



参加メンバーとの集合写真



ふるさと1品文化紹介・自己紹介



「新型コロナウイルス感染症と向き合う」をテーマとした発表(マカオ)



〇×クイズで回答する参加メンバー



バングラデシュ派遣の診療所



JRC出身者活動紹介

かわぐち まゆみ

川口 真由美さん

1975年生まれ。宮崎県出身。

中学時代に青少年赤十字（JRC）と出会い、現在は赤十字病院の看護師として日本だけでなく、世界を舞台に活躍。

井戸水を飲むネパールの人々の笑顔がすべての始まり



私は中学生の頃にJRC活動を始めました。その中学校がJRC加盟校だったので、1円玉募金や校内清掃、アルバム制作といった身近なJRC活動を行うなか、ある夏の日、私は転機を迎えます。それは夏休みに行われたJRCのリーダーシップ・トレーニング・センター（以下トレセン）への参加でした。

8mmビデオの画面に映し出された、1円玉募金でネパールにできた井戸で水を飲む人々の笑顔に私は一瞬で引き込まれました。いつか私も井戸を掘りたい！そう思うようになりました。

残念ながら高校はJRCに加盟していなかったので、日本赤十字社宮崎県支部のJRC担当者宛に手紙を送りました。県支部職員の方は私の想いに、真剣に向き合ってくれました。私は高校で赤十字同好会を作り、スタディ・センター（以下スタセン）へ参加。その後、高校3年生の夏にはJRCの一員としてフィリピンに派遣されました。

当時私は、井戸を掘るために土木建築の道に進むつもりでしたが、見学した病院で、看護師であれば井戸掘りより赤十字活動に貢献できるのではないかと思い、進路を変更しました。

JRC活動で得たものはかけがいのないものばかりです。「気づき、考え、実行する」の指針を共有し、トレセンやスタセンではいかに赤十字活動を活発にするか、推進させるにはどうするかと一緒に考える仲間を得ることができました。

国際救援を行っている今も、日本はもちろん世界中のどこでも、離れていたとしても赤十字のマークは私を繋いでくれています。JRCの歌のように「空は世界へ続いている」と私はいつも感じます。現在私は、赤十字病院の看護師として赤十字の7原則を大事にしながら日々、患者さんと向き合っています。

今の私があるのは、JRC活動で迷ったときに、親身になってくださった宮崎県支部職員の方々の存在がとても大きいです。指導者の方々にはぜひ、JRCメンバーの児童生徒と向き合ってあげて欲しいと思います。



ウガンダ派遣の際のスナップ。現地スタッフに子どもが生まれ、私のニックネームの「カワ」を付けてくれてきました。彼女の名前は「カワ・エリザベス」です



バングラデシュ派遣で訪問看護をした時に出会ったご家族と一緒に。皆笑顔ですが、ご家族は本当につらい思いをされました。人道とは何かを考えさせられました。私にとって記憶に残る派遣の一つです



フィリピンの1円玉募金を活用して掘られた井戸



フィリピン派遣の際にホームステイした先での写真



国際救援活動でスマトラ島へ。現地語しか通じず、ジェスチャーで点眼しました



バングラデシュ派遣の診療所

〈青少年赤十字(JRC)とは〉

はじまり



子どもたちの「気づき」をきっかけに

第一次世界大戦のとき、カナダ、アメリカ、オーストラリア、イタリアの学校の生徒と先生は、戦争で苦しむヨーロッパの人々をなぐさめ励ますため、手紙やプレゼントなどを赤十字を通じて届けました。これがきっかけとなり、JRCが誕生しました。

人道的な価値観を世界の子どもたちへ

赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できる人間に成長してほしいという願いから、赤十字社連盟(現在の国際赤十字・赤新月社連盟)は青少年赤十字を創設することを決めました。日本の青少年赤十字は、1922年に滋賀県の守山尋常高等小学校(現在の守山市立守山小学校)で「少年赤十字」として誕生しました。JRCはそれから脈々と活動を続け、2022年に100周年を迎えます。

JRCが大切にしていること

JRCの実践目標

健康・安全

生命と健康を大切にする

奉仕

人間として社会のため、人のために
尽くす責任を自覚し、実行する

国際理解・親善

広く世界の青少年を知り、仲良く
助け合う精神を養う

気づき

身近な問題を発見する

JRCの態度目標

考え

問題解決のための道筋や
方法を探る

実行する

活動に取り組み、評価と反省を
次へ活かす

JRCの導入・活用の メリット



赤十字を教材に、「生きる力」を育てる

JRCの活動は、子どもたちの思考力・判断力・表現力を
養うとともに、コミュニケーション能力や言語活動の充実
を期待できます。

赤十字には、人間の命と健康、尊厳を守るために世界中
で活動する中で得た経験やネットワークなどがあります。
赤十字そのものを「教材」として、存分にご活用ください。

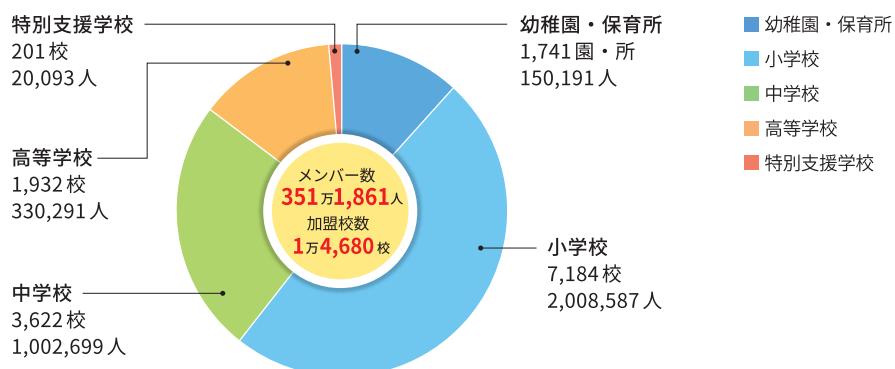
JRC加盟校数・メンバー数 (令和2年3月末現在)

加盟校数 **1万4,680校**

メンバー数 **351万1,861人**

加盟校数・メンバー数ともに2020年3月現在

※この3年で約20万人増加しています。





資料で見る青少年赤十字
[http://www.jrc.or.jp/
activity/youth/document/](http://www.jrc.or.jp/activity/youth/document/)



防災教育
[http://www.jrc.or.jp/
activity/youth/prevention/](http://www.jrc.or.jp/activity/youth/prevention/)



Junior Red Cross Information 2021

青少年赤十字指導情報 No.169

日本赤十字社 東京都港区芝大門1丁目1番3号
TEL. 03-3437-7083 FAX. 03-3432-5507 <http://www.jrc.or.jp/>